

大学名 茨城大学

第74号 特集タイトル  
「未来社会に向けた教員養成」

表題 入口から出口までの連続的な流れをとらえた支援で、実践的指導力をもった地域教員を育成

### ●学校インターンシップに年間のべ200人が参加

教員選考試験の倍率低下や、不登校・特別支援・外国にルーツをもつ子どもたちの増加などの地域の教育課題が山積する中、茨城大学教育学部では、学生の実践的指導力を育成する特徴的な取組みを進めてきました。

たとえば、教育実習とは別に1年生から取り組める「**学校インターンシップ**」では、附属学校園や県内の公立学校において、**年間のべ200人も**の学生たちが教務、幼児児童生徒支援、行事、部活動といった領域の活動に取り組んでいます。学校の業務の一部を学生たちが担うことにより、学生たちは早い段階から学校での実践のイメージをつかむことができ、また、受け入れる学校にとっては働き方改革の一助にもなっています。

### ●全学のオフキャンパスプログラムを活用した特徴的な取組み

また、茨城大学の**全学共通の教育プログラムも積極的に活用**。海外研修や発展学修、サービスマーケティングなど学内外での主体的な学修活動を支援する「iOP (internship Off-campus Program)」では、障害のある方の活動の場をキャンパス内に創出する取組みなどに学生たちが積極的に関わっています。また、幅広い知識やスキルを身に付ける全学共通の「**プラス(アイ)プログラム**」(各12単位×6プログラムで構成)には「**日本語教員養成プログラム**」があり、近年は外国人住民への教育支援のニーズの高まりもあって、教育学部でも多くの学生が履修しています。

### ●県教委、高校との連携 地域の教員確保に向けた入口～出口支援

さまざまな課題をめぐっては**茨城県教育委員会との綿密なコミュニケーション**を重ねてきています。県教委の指導主事による授業の開設の他、議論を重ねる中において、教育学部の選抜の**地域教員希望枠**を活用した教員の確保というアイデアも共有され、令和8年度より実際に導入することになりました(右図参照)。

さらに、茨城県内では教員養成につながるキャリア支援を進める高等学校も出てきており、そうした学校との高大連携事業にも積極的に取り組むことで、**地域の中等教育～教員採用という連続的な流れをとらえた支援**を通した、実践的指導力をもった教員の養成と教育課題解消を図っていきます。



▲教員養成講座を開設している茨城県立鉾田第一高等学校との連携。生徒たちが教育学部の授業に参加しました。



▲キャンパス内に障害のある方たちの活動の場を開設。教育学部の学生たちはiOP活動として企画・運営を行いました。

## ■茨城県教育委員会との連携により質の高い教員を確実に確保

### R8年度開設の新たな教育プログラム

- ◆ いじめ・不登校対応と子どもの居場所創設プログラム
- ◆ 小学校実践英語教育プログラム
- ◆ 小学校実践理科教育プログラム
- ◆ プログラミング教育指導力養成プログラム
- ◆ 外国にルーツのある子どもを含む学習困難児の教育支援プログラム
- ◆ 特別支援教育プログラム

地域教員希望枠(R8年度選抜)

入口

出口

茨城県公立学校教員選考試験を特別選考で受験可能(予定)